

公開講座

町と人に寄り添う図書館

〜紫波町図書館の実践から〜

岩手県の中央に位置する紫波町。

人口三万人余りの町の真ん中に

少しにぎやかな図書館があります。

館内にはBGMがかかっており、人々が立ち話をしています。

この図書館では、雑談から拾える町の人の声は、

貴重な情報と捉えられており、

近況や相談事から

新たなプロジェクトが生まれることもあるそうです。

調べる学習支援や農業支援など、

図書館の「人と人との交流」や

「町の人の「生きた声」」から生まれた

数々の取り組みは、

紫波町のまちづくりに欠かせないものとなっています。

全国から注目されてきた

紫波町図書館の取り組みについてお聞きし、

図書館の可能性について考えます。

お話し

手塚美希さん

紫波町図書館
主任司書



秋田県生まれ。浦安市立中央図書館、秋田市立中央図書館明徳館、秋田県立図書館での勤務後、2010年7月から紫波町企画課公民連携室に図書館専門嘱託員として勤務。紫波町図書館の開館準備を単身赴任しながら行う。12年開館を経て現職。19年、全米図書館協会年次大会2019で紫波町図書館の取組みを発表。みんなで飲む日本酒が好き。



2026年 2月19日(木) 14時30分～16時30分(予定)

真庭市立中央図書館 3階会議室 参加費：無料

対象：図書館司書および学校司書、市民 定員：30人

本講座は司書向けの研修として実施しますが、市民の皆さまにも公開し、どなたでも参加できる形で開催します。

お申し込みは、中央図書館のカウンターにお声かけいただくか、こちらからお願いします！ →

